[illegible]

[illegible]

[illegible]

散位頼保　　前阿波守藤原
散位範綱　兼馬助　　散位遠明
忠業入道　　資基入道
散位頼政　源義人変　　僧隆縁　伯耆
散位季時　　菅原宣宗　兼待賢門院蔵人
女房左佐　　女房丹波

判者　左京大夫顕輔

一番　秋月　　右清輝　賢家成
左

秋ハなを紙あまるとかりのみちのくにの月はるか
右　　前摂院家清
秋のよハ天の川瀬やもとこゆ
左　　ふるさとの月のあらけふるさとの
の月なとこそ今こそ見ゆ秋右ハとゝまる
いくるおもてをさへてるやうなるもをたに
いなをもかりのあまそ照月は天の川なの清まさるら
二番
左　　権中納言忠雅
我ゝゝや月はかはとこあまを　秋のよをなをとなをかりなる

右

秋のよ月ハ山よ入ふるる山のたにをたなびきしぬる

左　河ハ水ゆ　ながれふるる

よそへん右方ハ山端ハ名のをなりふる方にかくれ

さへてさすると

月新ハ入るハ入るさとハ先ふ入るへし

三番

左　左京大夫張輔

秋ふるに入るこゝろ

右　月新ハ入るとやうとさとる

作新か輔能補

人ハ入ハ入ふ月ハ入ふ入ふ新ハ入ふ

左方ハ月の入ハ秋を入ふ方の

心ハ入ハ入ハ入

久しき秋の夕さり晴れぬる雨の雲間にあけぬる

右

散位敦方

天の川やそせの淵やあらふらん清くしもとある秋の月かな

左方八月のさやけさにかりて雲晴れぬるかと思ふ

えんぬるにかりの音さやけさにみん行くを

天の河牛飼の淵のあらふらん月のえやもとまさるらん

五番

左

少将家明朝臣

晴れぬる雨の雲間は清き月の光は秋の月

右

散位隆長

さ淵や春駒の数は秋の月

右方の人々の春駒の数は秋の月

如何にとて左方の人々の春駒の数は秋の月

人々は春駒の数をいかにとて万葉集には

さくるさくなるや春駒の数は秋の月といまさ

みのさくなる駒をくらべるまくらにかまさるや

さ淵や大淵の宮人みしも春駒の数は秋の月

六番

左

散位敦保

くるとてはふる雨は秋の月えいはのかちのうしろ

右

あらしもはてぬ月の新清き秋ハみるもの清まさるん
さ雲ハ二つのそこ吹ひてへうま左雲ハ
みるもとこまさるにて月のさやかにみるかてて
たうさハ行くんおやけ行くあれ月の新代
あるとんのあれ月ハ屋とあるハ照まさる光

七番

左

清さハ秋やけさ新やまさるんさくまてあ秋の月

右

敬信範綱

敬信卿

ちとうて月のさやかにて白川の雲まもおぼろ新やさ
たう月ハ秋ん月ハ清くいるあるとこいるあるとこ
ちとうて月のさやかにあるハ月ハ月ハ
ちとうて月のさやかにあるハ月ハ月ハ
ちとうて月のさやかにあるハ月ハ月ハ
ちとうて月のさやかにあるハ月ハ月ハ
ちとうて月のさやかにあるハ月ハ月ハ
ちとうて月のさやかにあるハ月ハ月ハ
ちとうて月のさやかにあるハ月ハ月ハ
ちとうて月のさやかにあるハ月ハ月ハ

八番

左

千代経へき宿もうさにとらせて生ふる秋の夕月　忠兼入道

右

宿りのとをいふ題をよみ侍りける秋の夜月　資基入道

左家ハさもとりあへぬ秋の夜月

右歌ぶりさもいと月の光にてとりあつめたる事なるべし

しくれぬ夕ゆふ

月新の見るあるもあるかなきかの

九番

左

散位牧政

左

秋の夜月

右

秋の夜月をとて西の方なる我ぞ心ハ

僧隆縁

左家ハいまさ月をハ入て初秋の月をとりあつめ

右

そらにやたゝ家ハ心と紫れてくさへうも

何となく初秋なれども月をとて西の方なる心ハ

十番

左

散位季村

宿りのうちに月はやさしかりけれ

右

藤原宣兼

さもさそ八猿の山のゆひあるゝ秋のくれの月
九条内大臣
ゆくすえをいかにとゝはゝ山ちとゝ
ゆゝしくこの山ゝ見さらへらまほしくそ侍る
暮ゝ月の見八ゝ
女房土佐
十一番
左
秋の夜八ゝ
女房丹後
右
いさ海ゝ
九条内大臣
ゆくすえ
秋の月

乃数さへみゝ
さゝ
一番　九月盡
左
秋ゆく道
右
重家
ゝ
九条内大臣
天徳四年内裏歌合
ゝ八我

[illegible]

[illegible]

[illegible]

或本判歌
秋はぎ[illegible]

二番

左

何方とさしてきはけむもとをの秋のゆくへをたづん

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右

若てもの秋を男鹿はなくさへやふかき山とてをもうん

左　紅葉はなかるもおもうつへしとよめるんうあるよ

ゆふ日にてみちをさしあるまきさうかしかの鳴

枝よりはなれもてはいとをもうぬちうをと

ゆうてうこあるまあやしけなるあはなるみよりをる

そとはよまさかるを左　紅葉はの

をみち紫の名ぬをうとうは若てもの秋をしかをしむ

四番

左　家明

右

若草の秋を小倉の山かけ

左　隆長

ちはやふる神のいかきの秋の道とおもへはいと

左　なをあらしの風おもかけ

行方なきをうをうをう

左方は七月のこゝろをよめるとこそ今はこゝろえおとろへたる
なれどもいにしへのあれば右方は秋をもちゐてといへるハ
秋をたゝえてといひなすなるべしとこそ見侍
又六条山をしも岩たゝなはりていつれあれてゆくゆく
おもひ侍りや六条の山を岩こゝてもちゐやすきなるハ所
なり

六番

左　陸奥

涼しさハ被よりもまさる秋岩のあさけの風ハ衣うちぬ

右　敦方

命あるハ秋ハ又もあるへきにかゝるあさけの風ハ衣うちぬ

左方は初秋をもちゐて歌さもあ
めるに秋ハ朝夕風ハ被をしもとゝのへるなり
又秋とハ人々とも岩たゝなはりあさけの風
さもこゝろ中間なり右方
方はさてもあるまゝにしてをもてあ絶をゆ
ゝしきこゝろにもきこゆ
明なれば衣うちぬ人よりもまさるなり

七番

左

岩たゆく秋をこゝろにもちゐて忠兼入道
岩たゝなはりあさけを向かうけて逢坂の関

右

[illegible]

資基入道

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八番

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

隆綱

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九番

[illegible]

範綱

[illegible]

右

[illegible]

遠明

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

初秋十首の内に雁を聞くと題して

人まちやあへぬうらみと思へとも

なくなくこえわたるかりかな

人まちぬ秋のこころをたてそめて

なくなくこえわたるかりかな

九月尽の心を詠ける

十番

左　土佐

いろもかもかはるとはなしに

右　丹波

さえわたる月をもとめて人を思へ

右歌家隆かとこれを形式とは

あるべし物の哀を人まちぬ

作者の心秋の初をしたひ

歌人をこれをこそ

十一番

左　季時

惜やとも若行秋の

右　宣兼

我ならぬ人もかくや惜らん

左方は木枯をさそふ風

をみちにかさしてくれ

国立公文書館
National Archives of Japan

たとえば

ハてまつ月の夏の夜の月かげ明神ゆ

本

たとえば

ものうきなかの水の音かな

二番

たとえば

雲の奥の月ぞ清水の音

本

たとえば

鶯とまりの梅の花

本

たとえば

ほのぼのと明るの月の清水

本

たとえば

ぐるぐるの梅の花の清水

一番

たとえば

なかの月の清水の音

白ゝたるの月の清水

ぐるぐるの梅の花の清水

そもそもめでたくとよまれそうろうて十八日の日といふ
やうにいつのまにか右京のかみ八幡のさうけいのもとに
にうかえそうろう但そのかたをもめでたくいくるかたに
ありそうろうや
ちりそうろうこいふまそて流をたのもしくおもひいくるを
とそうろう

三番

九

中納言

思ひきや洞の内にはあれはてはいつくまでいつくを春のみやこ
右

重家

はるはいつくまでいつくを春のみやこ今はたのもしきかたもなしとよまれ
そうろう

九

右

九右京のこと案内のうへ右京のかみ人々とはかりあはせ
ぬ詠よかたはらにさぶらふ伊勢の大夫の洞の関
水茂なる人を使ありてまつ九重のうちをなつ
かしくいたしてみうんもんにあはせ合せとこ
まさりてや但のうまのかたくまさりてたくへあま
雅をこそ和よいくと身をなげてみまうて来来
まさうん

四番

九

新保

いつちうんこうの紫をそそめ給へ来てとふぬひあり給
右

頼仙

篠をゝ[illegible]なびかすとていとゝ萩の下葉も紅葉
左　所々に紅葉いとゝ[illegible]
[illegible]ゝに右ハ[illegible]なかるゝ人みちゝん

五番

左　隆季

風吹ハ沼ゝ[illegible]くゝ岩越の川の遠方
右　[illegible]方

人ゝ[illegible]思ひ[illegible]ゝ梓弓[illegible]ハ養に[illegible]
左　万葉集ハ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]

六番

左　家明

沼ゝハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
右　隆長

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

七番

左　頼政

遠方人にものをこそ思へ

右　隆信

人目をばしのぶの浦の海人の袖

左の方は人目をしのぶの浦の海人の袖
なれば恋しきにこそ袖はぬれ
みなれぬ恋しきにこそ袖はぬれ
なれぬ恋しきにこそ袖はぬれ
なれぬ恋しきにこそ袖はぬれ

八番

左　範綱

我袖にまがふ人目の磯なれば

右　遠明

浦風ぞ思ひ知るべき

左の方は人目の磯なれば
まつとしもなくいつ来ぬ
あくるを同じ袖の
判歌闕

九番

左　　忠兼入道

武州志久志久志久

[illegible]

大皇太后宮大進清輔朝臣家歌合　永暦元年七月日

題

鶯二　梅四　櫻二　時鳥二　織女五　月四

紅葉二　雪二　恋六　述懐六

歌人

九

太宮大進清輔朝臣　　僧俊恵

前紀伊守雅重　　僧頼昭

式部少輔藤原憲盛　　入道宮仁

刑部少輔宗基　　前馬助敦頼